

人生ハンド仏句

第77号
H. 20. 8. 1
(毎月1日発行)

因果の理法

住職 谷川寛俊

「あなたの身内の人が地獄のよ
うな苦しみを受けていたとしたら
あなたはこうされますか？」
そう問われたら、あなたはこう答
えるでしょう。

誰もがその地獄の苦しみから救
つてあげたいと思うのではないで
しょうか。炎天下での、のどの渴
きには、まず何よりも一杯の水が
必要です。その一杯の水を与える
ことが仏様の慈悲の心なのです。
それは理屈を超えた行為です。

早いもので今月はお盆の時節を
迎えます。

盂蘭盆(ウラバーナ)とは倒懸(と
うけん)すなわち、逆さ吊りの苦しみ
を意味しますが、これを「お盆」と
略称されています。

私たちの先祖様の中で供養され

ていない霊位は、もしかして逆さ吊
りのような苦しみを受けているかも
知れません。

その様な霊位の為にも、お盆には塔
婆を建て供養する行為が大切な仏事
なのであります。道理をはずれた行
為について、日蓮大聖人様は次のよ
うに言われています。

『悪の中の大悪は我身にその苦を受
くるのみならず、子と孫と末七代ま
でもその罪がのしかかってくる。ま
た善の中の大善も同じく子や孫、末
の血縁にまでつながっていくもので
す。』

仏教は常に因果の理法を説きます。
そういう意味では大変科学的です。
こうすれば必ずこうなるという理が
とかれていきます。

「心地観経」というお経には、「過
去の因を知らんと欲すれば、その現
在の果を見よ。未来の果を知らんと
欲すれば、その現在の因を見よ。」

これを分かりやすく示せば次のよう
に成ります。見えない過去の出来事
を知ろうとするならば現在の自分の
受けている結果を見なさい。

編集・発行
玉蓮山 真成 寺
編 集 部 谷川久仁子
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochanthk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/sinjyoujitoyama108/>

目に見えない未来の自分の結果を知
ろうとするならば現在の自分が行っ
ている振る舞いを見なさい。
以前私は、こんな事を言われたこと
があります。

「仏教は過去の因果を説くから好き
じゃないのです。」

その時私は次の様にお答えしました。
「過去に目を向けるより、未来に目
を向けて下さい。」大切なのは「今
の自分の行為が仏様や諸天善神様の
心に叶っているかどうか。」という
ことです。

あまりにも自己中心の身勝手な振る
舞いをしてはいないだろうかと、あ
くまでも現在を中心に過去と未来を
見据えていくことによつて、自分自
身の心の姿がよく見えて来るのでは
ないでしょうか。



ものが生まれるのは
諸々の因と縁の和合によらざるはない